



↑コンサートでは、フルートの音色とピアノの音色が響き渡る

←演奏に合わせて合唱する児童ら（蔵之元小）

公共ホール音楽活性化事業

フルートの音色に酔いしれる

12月11日から13日にかけて、公共ホール音楽活性化事業がありました。

この事業は、新進演奏家を公共ホールに派遣し、企画・制作能力を高めるための研修機会を提供することで、地域文化の活性化を図ることを目的としています。

11日、12日には町内の4小・中学校で、フルート奏者の森岡有裕子さんとピアノ奏者の桑原花子さんが、フルートの歴史学習や演奏体験を実施。演奏体験では、子どもたちがフルートとピアノの演奏に合わせて、合唱などを楽しみました。

13日には、町文化ホールでフルートコンサートを開催し、町内外から来場した約230人が鑑賞に訪れ、華麗なフルートとピアノの調べに酔いしれました。

獅子島中学校2年の島田梨於那さんは「初めてフルートを間近で見た。演奏は迫力があって驚いたけど、きれいな音色ですごく感動した」と目を輝かせました。

平成26年度手話講座閉講式

学んだ手話であいさつ

12月17日、平成26年度手話講座閉講式がありました。

式では、受講生に修了証書と、記念品が贈呈されました。講師の牧実夫さんが「この半年間で、みんな手話がとても上手になった。講座で学んだ手話を忘れずに、社会で生かしてほしい」と手話を使って話しました。

受講生らは講座の締めくくりとして一人ひとり、手話を使ってあいさつ。多くの受講生が「これからも手話を使ってコミュニケーションを図りたい。講座が終わるのが残念。またの機会があれば参加したい」と学んだ手話で発表しました。



↑講師の牧さん（前列右から4人目）と受講生ら



↑ベンチを設置する社会福祉協議会職員の久保さん

社会福祉協議会が寄贈

老朽化したベンチを交換

赤い羽根共同募金を還元し、配当金を地域に役立てることを目的に、社会福祉協議会（早崎九洲男会長）が、12月4日、町内のバス停にベンチを寄贈しました。

今回交換や設置をしたのは、老朽化していた鷹巣診療所前や、平尾車庫前、蔵之元、汐見など7つのバス停。

設置した同協議会の久保慎也さんは「この活動は、町民の皆さんの協力あってこそ。バスを待つときなど、使ってほしい」と話しました。